

# 京都建築事務所

想いをカタチに、想い以上の感動を



株式会社 京都建築事務所  
代表取締役社長 細見 建司

〒604-8083

京都市中京区三条通柳馬場東入  
中之町 10 番地

TEL:075-211-7277

FAX:075-211-7270

<http://www.kyoto-archi.co.jp/>



医療福祉施設の新築、増築、改修等、お気軽にお問合せください。

いまこそ、社会保障・社会福祉の原理・原則を！

## 真田是著作集[全5巻]

●全5巻セット 15,500 円(税・送料込)



- |       |                       |
|-------|-----------------------|
| 第 1 巻 | 社会問題論                 |
| 第 2 巻 | 社会保障論                 |
| 第 3 巻 | 社会福祉論                 |
| 第 4 巻 | I 地域福祉と社会福祉協議会        |
| 第 4 巻 | II 民間社会福祉論            |
| 第 5 巻 | I 福祉労働論    II 社会福祉運動論 |
| 第 4 巻 | III 部落問題論             |

一巻いつでも  
ご購入いただけます  
各巻3384円  
(税・送料込)

発行●福祉のひろば（書店ではご購入いただけません）

インターネットで「福祉のひろばオンライン」→「書籍」を検索してください。  
お支払いは便利なカード決済で。▶お問合せ先 TEL・FAX06-6779-4955



# 最後までここで暮らしたい

## 中山間地域の小規模多機能ホーム・すずらん川合

島根県大田市にある「すずらん川合」は、南東にある三瓶山方面、南西にある石見銀山方面の山間部地域を主に対象とする、定員29名の小規模多機能ホームです。通い（デイサービス）、訪問（ホームヘルプ）、宿泊（ショートステイ）、介護サービス計画作成、の4つの機能を組み合わせて、24時間365日、切れ目なく利用者の生活を支えています。

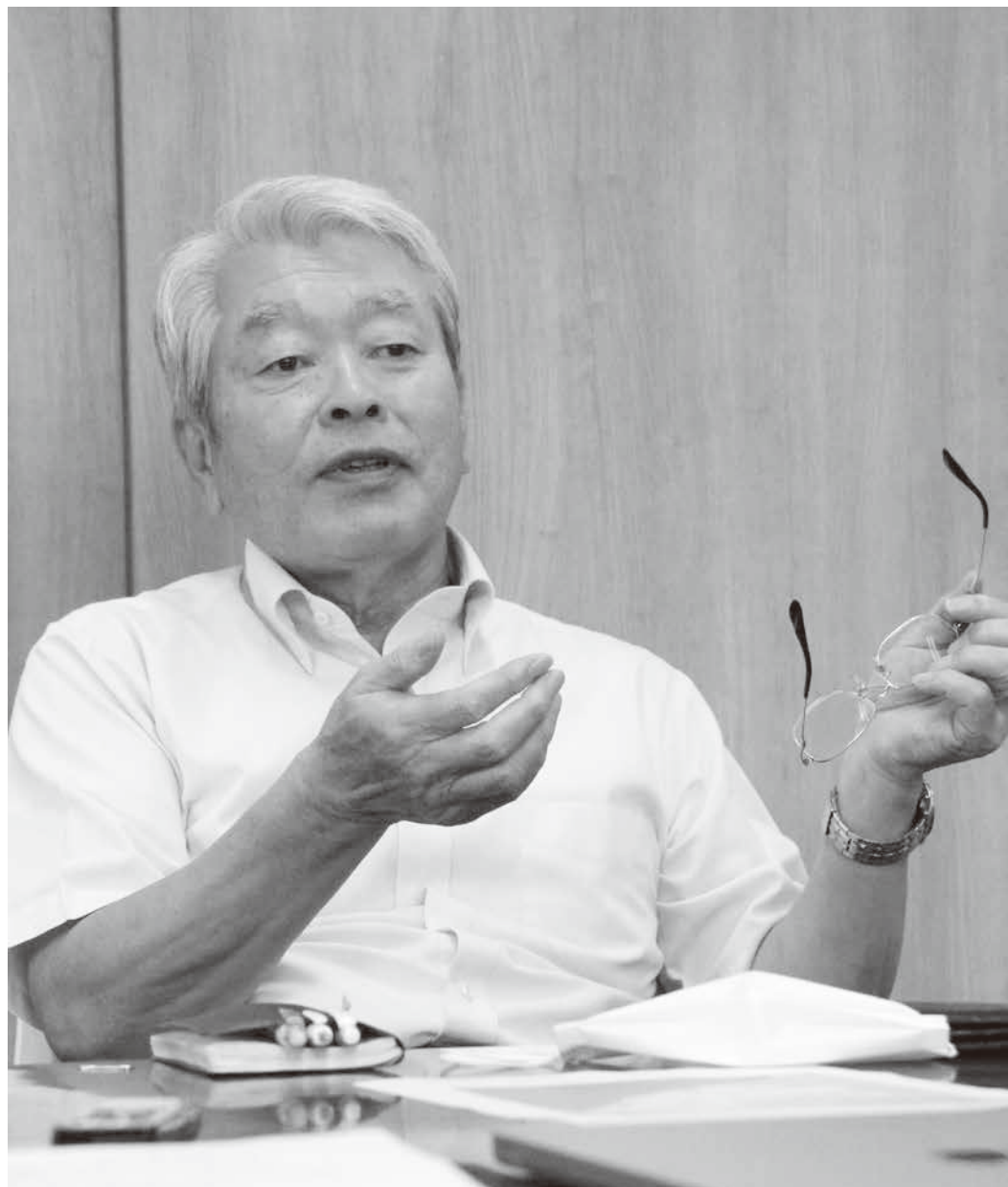


現在（9月時点）の登録利用者は20名で、半数がひとり暮らしです。施設長の山室まことさん（4ページ写真）は「職員の確保がむずかしく、なかなか利用者を増やせないきびしい状況があります。いっぽうで、在宅の高齢者が少なくなっている状況もあります」と話されます。出雲や松江の都市部のサービス付き高齢者向け住宅（サ高住）に入居する人がどんどん増え、在宅の高齢者が減り、地域のデイサービスや小規模多機能型居宅介護の利用がいっぱいにならないとのこと。





山間部の人口減少、高齢化が急速にすすむなか、診療所がなくなり、買い物ができる店もなくなり、介護事業所やヘルパーも来てくれなくなっています。いっぽうで、都市部にはどんどんサ高住がつくられ、特養やグループホームなどの入所施設も空きが出てくるようになっていきます。在宅で住み続けることがむずかしくなるなか、離れて暮らす娘や息子から、はやめに都市部の施設への入居を勧められるケースもあります。山室さんは、「すずらん川合にきて、通いや配食を利用したりして、いまの生活でなんとかやっているのに、まったく知らない地域の施設に行けと言われて、行きたくない、とここで涙を流す人もいます」と話されます。



すずらん川合を運営する「企業組合しまね就労福祉事業団」は、1979年に「大田市中高齢者事業団」として発足しました。第二次世界大戦後、国は失業対策事業（失対事業）を開始し、そこで働く日雇い労働者を中心に組織されたのが「全日本自由労働組合」（現在の全日本建設交運一般労働組合：建交労）です。その後、国の失対事業が廃止されるなか、全国で事業団づくりがはじまり、「大田市中高齢者事業団」が設立されました。特集のなかでは、「中高齢者の仕事づくり」からスタートした「しまね就労福祉事業団」が福祉事業をおこなうようになった経過や、福祉事業への思いについて紹介しています。

（写真・文 申 佳弥）

## 【ひろばトーク】

利用者と職員両方の人権を守りたい

—「恵問題」と向き合って—

丹羽 渉 6

## 福祉のひろば

2025年12月号

### ●特集● 島根で暮らし、働き、育てる

地域での暮らしを守る「仕事おこし」 山室まこと 10

こころが通じ合うしあわせを 牛尾雅弘・安田菜緒美 16

—「赤ちゃん登校日」をつづけて16年

小さなまちが挑む地域再生と防災・福祉のとりくみ

神田みゆき・藤原美幸 22

### ●トピックス●

日本の高齢者はなぜ働き続けるのか

—「高齢者の仕事と生活実態調査」が示すもの 浜岡 政好 28

「今日より明日はよくなる」のか?!

石倉理事長にきく「骨太方針2025」のポイント〈後編〉 32

真田理論の理念は、グローバルな社会福祉の世界にも

生きている! 伊藤 文人 36

総合社会福祉研究所第32回定期総会報告／新理事紹介 42

### ●連載●

阪神・淡路大震災発生から30年 第9回

災害時における保育所の役割に引き合って〈後編〉 増田 百代 48

なかまと職員と家族と、ともに築く暮らしの場

立ち止まりながらも歩きつづけて 小林佐江子 52

続・ヘルパー歳時記 「Mさんの生活」に寄り添う① 56

★最終回★WORK WORK——わくワク——

ゴミ拾いからはじまる創造 特定非営利活動法人ふう 60

J O B & A C T I O N 全国福祉保育労働組合 (57)

個人が尊重される福祉職場をめざして 62

私の履歴書 社会福祉経営全国会議 (57) 平澤 幸子 64

保育とはだれのために——公立から民間へ、私の挑戦

阿修羅がゆく わたしが好きな釜ヶ崎 (77) 水野阿修羅 66

育つ風景 保育園の食事の“好き嫌い”をめぐる 清水 玲子 68

映画案内 『TOKYO タクシー』 吉村 英夫 70

現代の貧困を訪ねて 生田 武志 72

台湾の野宿者支援団体「芒草心」を訪ねる (その2)

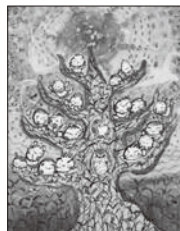
似らすとれーしょん道場 似顔絵まんがアート

THE ノーベルSHOW じゃ! ラッキー植松 74

ホームレスから日本を見れば ありむら潜 76

花咲け! 男やもめ 川口モトコ 77

●表紙の絵●  
神門やす子



みんなのポスト 46／福祉の動き 78／今月の本棚 81

●グラビア● 最後までここで暮らしたい

中山間地域の小規模多機能ホーム・すずらん川合

# 利用者と職員両方の 人権を守りたい

—「恵問題」と向き合って—

株式会社INNOVEL HEALTHCARE 相談支援イノベル  
全国福祉保育労働組合東海地方本部 イノベルあいち分会

丹羽 渉

私は現在、相談員兼事業所アドバイザーとして障害福祉事業に携わっています。二〇二〇年に株式会社「恵」<sup>めぐみ</sup>の運営するグループホームの支援員として入職し、その後、管理者を経て、現在の職務に就いています。事業所の運営管理をはじめ、地域資源や自立支援協議会とのつながりを重視した活動をおこなっています。相談員としては、主に発達障害児・医療的ケア児を含む障害児分野を担当しています。

株式会社「恵」で発覚した食材費の過剰徴収、いわゆる「恵問題」は、二〇二三年夏にNHKなどの報道で明らかになり、利用者や家族、職員の間で大きな波紋を呼びました。利用継続や雇用の保障を求める声が上がるなか、外部の障害者支援団体「きょうさん」へ支援を求めたことが、私が組合活動にかかわるきっかけとなりました。

問題は食材費の過剰徴収にとどまらず、人員配置基準や運営基準違反、利用者の権利侵害など、事業運営全体におよぶものでした。きょうさん、愛知県障害者（児）の生活と権利を守る連絡協議会（愛障協）、全国福祉保育労働組合（福祉保育労）の三団体と協議を重ねるなかで、「恵問題」への対応を目的とした対策委員会の立ち上げ、福祉保育労への加入と分会の設立に携わりました。主には、厚生労働省、愛知県、名古屋市、豊明市、各基幹相談支援センターなどへの情報共有や現状報告など、水面下での活動を続けました。

こうした活動は通常業務と並行しておこなっていたため、周囲の批判や偏向報道の影響を受けることもありました。家族や知人からは「はやく辞めたほうがいい」と心配さ





## にわ わたる

2020年、株式会社「恵」が運営する障害福祉サービス・共同生活援助（グループホーム）の支援員として入職。管理者を経て兼務しながら事業所アドバイザーへ就任。2025年3月に、株式会社「恵」のほぼすべての事業所、利用者、職員が、INNOVEL HEALTHCAREに一括承継され、引き続きアドバイザーと相談員を兼務している。

れ、また、自治体や自立支援協議会から会議に呼ばれなくなりました。さらに、法人内では情報をリークした犯人探しが続くなど、精神的に孤立しやすく、非常に苦しい時期もありました。そんななか、三団体の方々は常にこちらの支えとなり、ともに活動する組合員の仲間の存在が大きな励みとなりました。一人では到底乗り越えられなかった困難を、仲間とともに支え合いながら乗り越えることができたと思います。

この経験を通して、自分自身も正しい知識を学び、専門性を高める貴重な機会を得ました。とくに、権利擁護や意思決定支援の重要性に触れることが多く、現在の実践を支える指針となっています。思いだけが先走り、正確な知識に基づかない我流の支援では虐待につながる危険性があります。また、数字や効率ばかりを追えば、利用者の安心・安全は守れないことを学びました。「恵問題」は、単なる一法人の不正にとどまらず、福祉業界にまん延する「障害者ビジネス」という社会的課題を浮き彫りにしたと感じています。「恵問題」に限らず、福祉の本質を理解しない経営や、利益を優先する姿勢、ずさんな運営体質などが、今後さらに表面化していくのではないかと危惧しています。

これからは、発達障害児支援や医療的ケア児コーディネーターとしての知識と経験を重ねながら、相談支援専門員としての実践を積みみたいと考えています。そして、社会的課題を研究し続け、つながりを大切にしながら、学問的視点をもつソーシャルワーカーとして成長していくことを目指しています。



## 島根で暮らし、働き、育てる

山陰地方に位置する島根県。日本海に接する北部はシジミで有名な宍道湖<sup>しんじこ</sup>を有し漁業が盛んないづばう、内陸部には中国山地が連なり、県面積の七八%が森林です。江戸時代から明治時代にかけては、農林水産業を中心に、中山間地域では「たたら製鉄」、東部の出雲<sup>いずも</sup>地方では繊維産業、西部の石見<sup>いわみ</sup>地方では石州半紙<sup>しゅうはんし</sup>と呼ばれる和紙製造が發展しました。大正時代には繊維産業が中心となり、他県の繊維企業が島根県に進出するなど、島根県は繊維産業の重要な生産拠点となりました。戦後の高度経済成長期には、家電製品などに対する需要の拡大を受け、数多くの電子機器会社が島根県に進出し、電気機械産業は現在も島根県の主要なものづくり産業の一つです。日本の他の地方都市と同様、日本の産業構造の変化に合わせ、大企業の工場を誘致するかたちで、住民の雇用創出をはかってきました。

いっぽうで、一九六〇年代から使われてきた「過疎」という言葉は、島根県<sup>ひきみ</sup>見町<sup>み</sup>（現・益田市）が発祥であるように、一九八〇年代以降、人口減少と少子高齢化がつづいています。二〇二五年一〇月一日現在の島根県の推計人口は六三万三一〇五人と、一〇年前の二〇一五年とくらべて、六万人以上減少しています。県全体の高齢化率は三五・二%（二〇二四年一〇月一日時点）で、地域によっては五割に達しようとしています。

本誌二〇二五年二月号の特集で登場していただいた関耕平さん（島根大学教授）は、こうした島根県の

状況について、「島根県は日本で最もはやい時期から地域社会の『解体』がはじまりました。いつぼう、最もはやく地域の『再生』へのとりくみがはじまったのも島根県です」とし、その一つとして、「小さな拠点」づくりのとりくみについて紹介してくださいました。

今号の特集では、もうすこしくわしく島根県内の地域の課題やとりくみを学ぼうと、島根県大田市、江津市、雲南市の地域にうかがい、お話を聞かせていただきました。さまざまな課題を抱えつつも、いま地域に暮らしている人たちが大切にしたい、この地域で生まれ育ったことに誇りをもってもらいたい、地域の魅力を守りたい、と奮闘する方々に出会い、小さな地域だからこそできるとりくみやチャレンジもうかがいました。「企業組合しまね就労福祉事業団」では、民間企業が目を向けない山間部において、住民のニーズを労働組合として行政に届け、それを地域の仕事にしていくとりくみをうかがいました。地域で暮らし、働き、育てるという営みを、島根でのさまざまなとりくみから考えたいと思います。

（編集主任 申 佳弥）

